

## 奥利根源流 平ヶ岳(2,141m)登山



「玉子石と池塘群」

期 日 2022年9月30日～10月1日

参 加 石川 誠 (80歳)

行 程

09/30日(金) 自宅-関越道小出ic～銀山湖宿舎(奥只見山荘)泊

10/1日(土) 宿舎3:50発～マイクロバスで中ノ俣川登山口5:30=玉子石

～池の岳～9:30平ヶ岳10:00～往路下山～中ノ俣登山口12:30着～

中の俣林道 宿舎14:00着 16:00往路經由帰宅

銀山湖に入ったのは昭和39年春山合宿で北ノ俣川に入ったのが最初で、雪解けの川を裸足で渡り、その水の冷たさに対岸で暫らく立ち上がれなかったのが最初の思い出として残っている。その時出合わせたのが、日大山岳部の2名の方がキスリングを背負って猿ヶ城～荒沢岳を目指すと出会ったのが強く印象に残っている。

当時は電源開発で今のシルバーラインなども許可を受けて入っていたのだと記憶する。

平ヶ岳登山は宿舎から、宿のマイクロバスに乗車、乗り合わせた登山者は、ガイド登山や夫婦つれ、単身校の方など13名。御池へ繋がる国道352号線を暫らく進み、中ノ俣川出合にある雨池橋から林道を入る。1時間40分ほどで草原上の開けた登山口駐車場に着いた。この林道は一般車は通行できないが、銀山湖周辺で山荘を営む事業者が特別に許可を得て、宿泊する登山者を送迎しているとのことだ。

駐車場には3台ほどのバスが既に駐車していて、降りた登山者たちが三々五々出発して行った。登山口からはすぐ中ノ俣川を橋で渡り尾根に取りつくこととなる。



「オオシラビソの巨木」

其処には写真で見た玉子石とやらが鎮座していて、周りの池塘に溶け込んだ絶景で、兎岳から荒沢岳につながる稜線がなだらかに続いている。分岐から池ノ岳の下をトラバースして頂上に向かう途中には水場も有り穏やかに続く木道を辿り、頂上には9時30分頃着いた。

頂上は名前通りに平らで360度の展望である。目の前には尾瀬の燧岳、至仏山から2年前の5月に登った会津駒ヶ岳も見て取れる。



「渡渉して登山道に取りつく」

まだ早朝5:30過ぎ、ゆっくりと体身体をなしながら登る。途中から対岸の山に朝日が当たり視界がはっきりしてくるが、段々と登りもきつく急登となり、体が慣れるまでは80歳、80kgの身体にはきついものがあった。

1時間程登ると視界も開け丹後山、兎岳の稜線に朝日が当たり、晴天を約束してくれている。目の前には険ヶ倉山に突き上げる谷がまだ残雪を残して険悪な様相が見て取れる。2.5時間程の急登を登りきると視界が開け暫らく進むと玉子石への分岐に到着する。

目の前には穏やかな平ヶ岳の稜線が頂上へと続いている。風は爽やかに吹いているが、陽射しは強い。分岐から玉子石に向かう道は5分ほどと近い。



「朝陽が登り険しい谷の様相が伺える」